

薬剤師国家試験予備校を開校。 口コミだけで130人の生徒が集まりました

大手薬剤師国家試験予備校の「カリスマ講師」だった児島氏が今年7月、新たに予備校を開校した。国家試験合格へのサポートもさることながら、資格を持ちながらも眠らせたままのブランクのある薬剤師や薬剤師志望者の道を広げるべく、心理カウンセラーのコースを設けるなどキャリア支援にも力を注ぐ。同氏を募って前職から行動を共にした8人の同志たちと「気概のある薬剤師を育てたい」と、まい進する姿に生徒たちも熱い想いで学んでいる。



株式会社Medisere

<http://www.medisere.co.jp/>

TEL 06-6885-7778

代表取締役社長 児島 恵美子 氏

学生の資格取得に力を注ぐ「大学の専門学校化」の傾向も危惧する同氏。「人間性の幅を広げる大学教育の上に、専門を学ぶ環境をつくるのが真の薬剤師を育てる道」と説く。



130人の生徒たちの表情がいきいきとしているのが印象的。スクールカラーは「元気を与える色」のオレンジだ。



今年4月末まで勤務していた予備校では40人の講師陣のトップとして5つの教室を統括する立場にあった。常に生徒たちと真正面から向き合い、試験のストレスでうつを抱えてしまう生徒を支えようと心理カウンセラーの資格を取って心のケアにも当たってきた熱血教師だ。「資格を取ることが目的になってはいけない。学んだ知識を社会で役立てることこそ大切」と考える児島氏は、大学1年次からの試験対策の必要性を説く前職の方針に違和感を覚えるようになり、自由な立場で一人で活動を続けようと退職を決意する。だが、同僚の講師ら8人が一緒に道を歩みたいと申し出た。「私は一人で活動しようと考えていたので一度は引き止めたのですが、養っていくには新たに予備校を立上げるしかない」と気持ちを切り替えました。果敢な行動力で、退職してわずか3ヵ月後の7月にはオープンにこぎつけた。

無名の新米予備校だったが、口コミだけで130人の生徒が集まった。「髷がりのあった大学の先生方が薦めてくださったようです」。短い準備期間で最も苦労したのはテキストの作成だったという。他校のテキストは分厚いもので1科目800ページほどある。「大変な勉強の負担を少しでも軽くすることで、楽しく学んで欲しいというのが講師としての私の

願い。思い切って半分にしました」。イラストもふんだんに使われ、わかりやすいと生徒たちから好評だ。

身近な医療の専門家として、これまで以上に健康を守る役割が期待される薬剤師。その資質をさらに高める狙いで薬学部が6年制へと移行し、需要に応えようと薬学部の新設が急増するなど、薬学教育を取り巻く環境は大きく変化しつつある。この状況で同氏が心配しているのが「履修する人は増えているのに、国家試験合格者の枠は増える予定がないこと」だ。門が狭くなるため薬剤師の道を志しながら夢がかなわない人が増える。そんな人達のキャリアパスを広げようという想いから、来年4月に「心理カウンセラーコース」を新設することにした。また、薬剤師資格を取りながら、結婚や子育てのために資格を眠らせたままにしている人のためのコースも開講する。

「これからはドラッグストアにもカウンセラーが必要。医療の知識を前提に、薬だけでなく健康補助食品、アロマセラピーなど複合的なサポートで病気を予防する役割を果たすことができる」と同氏。薬剤師、心理カウンセラーが社会に果たす役割の大きさを想う強い気持ちで、教育への情熱を生み出している。